

[封印],[ラッパ],[鉢]の相互関係に関する考察

7つの封印／7つのラッパ／7つの鉢

7つのラッパは7番目の封印が解かれることによって始まる。

いわゆる「入れ子」構造になっています。

しかし、7つの鉢については、そうした明確な記述はないので、今のところ単独の記述として扱います。

7つの封印



- | | |
|------|----------|
| 第1封印 | 白い馬 |
| 第2封印 | 赤い馬 |
| 第3封印 | 黒い馬 |
| 第4封印 | 青ざめた馬 |
| 第5封印 | 屠られた魂 |
| 第6封印 | 星落下 神の憤り |
| 第7封印 | 雷声 稲妻 地震 |

キーワード

7つの鉢



- | | |
|-----|------------|
| 第1鉢 | 地 |
| 第2鉢 | 海 |
| 第3鉢 | 川 水のわき出る所 |
| 第4鉢 | 太陽 |
| 第5鉢 | 野獣の座 |
| 第6鉢 | 大川ユーフラテス |
| 第7鉢 | 空気 [事は成った] |

ターゲット

7つのラッパ



- | | |
|-------|------------|
| 第1ラッパ | 地 |
| 第2ラッパ | 海 |
| 第3ラッパ | 川 水のわき出る所 |
| 第4ラッパ | 太陽 |
| 第5ラッパ | 底知れぬ深みの坑 |
| 第6ラッパ | 大川ユーフラテス |
| 第7ラッパ | キリストの王国なった |

ターゲット／キーワード

3つの災いのそれぞれ

7番目の

共通した内容

第7番目の封印

(啓示 8:4 - 5) 聖なる者たちの祈りが神のみ前に上り、祭壇の火が地に投げつけられ、雷と声と稲妻と地震

第7番目のラッパ

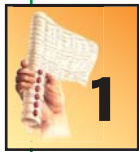
(啓示 11:19) 神の神殿の契約の箱が見え、稲妻と声と雷と地震と大きな雹

第7番目の鉢

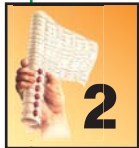
(啓示 16:17 - 18) 大きな声が聖なる所から出て、「事は成った!」と言った。稲妻と声と雷が生じ、大地震

7つの封印 全体を概観する 予告編（現実の動きはラッパ以降）

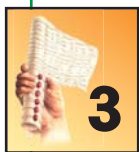
啓示 6:1 - 8:6) キーワード抜粋



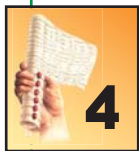
第一の封印 白い馬 弓を持っていた。 冠が与えられ、 征服を完了するために出て行った



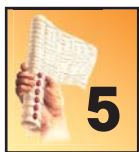
第二の封印 火のような色の馬 人々がむざんな殺し合いをするよう地から平和を取り去ることが許された 大きな剣が彼に与えられた



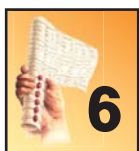
第三の封印を 黒い馬 手にはかりを持っていた 「小麦一嚮、大麦三嚮は一デナリ。 オリーブ油とぶどう酒を損なうな」



第四の封印 青ざめた馬 “死” という名 ハデスがあとに従っていた 四分の一に対する権威が彼らに与えられた 長い剣と食糧不足と死の災厄 また地の野獣によって殺すためである。



第五の封印 神の言葉のために、 証しの業のためにほふられた者たちの魂が祭壇の下にいる 「主よ、あなたはいつまで裁きを、 血の復しゅうを控えておられるのか」 白くて長い衣が与えられた 仲間の兄弟たちの数も満ちるまで、 しばらく休むように告げられた



第六の封印 大きな地震が起こった 太陽は黒くなり月は血のようになった 天の星が地に落ちた天が去ってゆき、 すべての山と島が取り除かれ 地の王たち、 高位の者たち、 軍司令官たち、 富んだ者、 強い者、 すべての奴隷また自由人は、 身を隠した み座に座っておられる方の顔から、 隠してくれ憤りの大いなる日が来たからだ 四人のみ使いが地の四隅に立ち、 風を押さえて、 地にも海にも、 どの木にも風が吹かないようにしているのを見た 生ける神の証印を携えて上って行くのを見た。 地と海を損なうことを許された 「額に証印を押してしまうまでは、 地も海も木も損なってはならない」 それは十四万四千



第七の封印 約半時間のあいだ天に静寂が起こった み座の前にある 祭壇の上ですべての聖なる者たちの祈りのため、 多量の香が与えられた 聖なる者たちの祈り 神のみ前に上った み使いはそれを地に投げつけた 雷、 声と稲妻と地震が起こった

7つのラッパ サタン体制の災いの行動 ターゲットはクリスチャンと一般人

(啓示 8:7 - 9:19,14-19) キーワード抜粋



1 第一のラッパ 地に投げつけられた 地の三分の一、樹木の三分の一が焼きつくされ、草木のすべてが焼きつくされた



2 第二のラッパ 海に投げ込まれた 海の三分の一が血になった 海の被造物、船の三分の一が難破した



3 第三のラッパ 川、水のわき出るところとに落ちた 水の三分の一は苦よもぎに変わり多くの人がその水のために死んだ



4 第四のラッパ 太陽、月と星の三分の一が強打された それらの三分の一が暗くされ「地に住む者たちには災いだ！ 三人のみ使いの吹き鳴らす残りのラッパの音のゆえに」



5 第五のラッパ 天から地に落ちた星 底知れぬ深みの坑のかぎが彼に与えられ 開けると、煙がその坑から立ち上り、太陽が、また空気が暗くなった 煙の中からいなごが出て来た 地の草木を、どんな緑も樹木も損なわないように 神の証印のない人々だけを損なうようにと告げられた いなごには、殺すはなく五か月責め苦が許された 死は彼らから逃げてゆく いなごの姿は戦闘の馬 頭には冠、顔は人間 女の髪の毛があった 歯はライオン 鉄の胸当てのような胸当て その尾に五か月痛める権威がある。彼らの上には王 底知れぬ深みの使い 一つの災いが過ぎたなお二つの災いが来る

3つの
災い1



6 第六のラッパ「大川ユーフラテスの四人のみ使いをほどきなさい」 人々の三分の一を殺すため、その時刻と日と月と年のために用意されていたのである騎兵隊の数は万の二万倍 赤と 青と、黄色の胸当てを着けていた 馬の頭はライオン その口からは火と煙と硫黄が出ていた これら三つの災厄によって三分の一が殺された その口から出た火と煙と硫黄のためである。第二の災いが過ぎた 第三の災いが速やかに来る。

3つの
災い2



7 第七のラッパ「世の王国はキリストの王国となった あなたは王として支配を始められた 諸国民は憤り、あなたご自身の憤りも到来した 死んだ者たちを裁き、聖なる者たちに報いを与え、地を破滅させている者を破滅に定められた時が到来した 神の神殿の聖なる所が開かれ、稲妻と声と雷と地震と大きな雹が生じた

3つの
災い3

7つの鉢 神の裁きの表明 ターゲットはサタンの体制

(啓示 16:2 - 21) キーワード抜粋

1



第一の鉢 地に注ぎ出し 害をもたらす悪性のかいよう 野獣とその像を崇拝していた者たちに生じた

2



第二の者 海に注ぎ出し 死人の血のようになり, すべての海にあるものが死んだ

3



第三の者 川と水のわき出るところに注ぎ出 それらは血になった あなたは義にかなっておられます 彼らは聖なる者 の血を注ぎ出しました 彼らはそうされるに価する

4



第四の鉢 太陽の上に注ぎ出し 太陽は, 人を火で焦がすことが許された

5



第五の鉢 野獣の座の上に注ぎ出し その王国は暗くなり 苦痛のあまり舌をかみはじめた

6



第六の鉢 大川ユーフラテスの上に注ぎ出し その水はかれて 日の昇る方から来る王たちのために道が備えられる 三つの汚れた靈感の表現が, 龍の口, 野獣の口, 偽預言者の口から出るのを見た 全地の王たちのもとに出て行く 神の戦争に集めるため わたしは盗人のように来る 王たちハルマゲドンに集めた

7



第七の鉢 空気の上に注ぎ出した 「事は成った！」 稲妻と声と雷が生じ, 大地震が起きた 大いなる都市は三つに裂け, 諸国民の数々の都市が倒れた 大いなるバビロンは 神のみ前で思い出され 怒りのぶどう酒の彼女に与えるため すべての島は逃げ, 山々は見えなくなった 一タラントの雹が降り, 雹の災厄のために神を冒とくした

「封印」シリーズは「予告編」

「封印」シリーズと呼んでいるのは、「内部にも裏側にも書き込まれた巻き物」があり、その「巻き物を開きあるいはその中を見ること」によってヨハネに知らされている情報です。従って、順に封印が開かれるとは、順に裁きの内容を「見る」ことができるようにされた。ということです。（しかし、記述には順に封印が解かれるだけで、それを見たとか、読んだとう記述はありません）従って「起きた」ことではなく「起きることになっている」事柄です。実際に記述もそのようになっています。

「征服を完了するために出て行った」そしてどうなったのでしょうか。

「征服を完了する[ため]」と書かれていますが、征服は完了したのでしょうか。誰をどのように征服したのでしょうか。具体的な行動、内容は何も記されていません。

「平和を取り去ることが許された」許されただけで平和を取り去ったとは書かれていません。

「大きな剣が彼に与えられた」与えられただけで、それを使った様子は何もありません。

4頭の馬によって人々「を殺すためである」とありますが、人々が死んだ記述はありません。

「天の星が地に落ちた」「天が去ってゆき、すべての山と島がその場所から取り除かれた」

これがこの時点で起きていると、3番目のラッパの時に落ちることができません。

少なくとも第6の封印の時ですえ地も海も損なわれいません。

また第7の鉢の時に「すべての島は逃げ、山々は見えなくなった」が起き得ません。

「そして、地の王たち、高位の者たち、軍司令官たち、富んだ者、強い者、すべての奴隷また自由人は、ほら穴や山の岩塊の間に身を隠した。」この時点でこんなに怯えている人々に、その後続く災いを引き起こし、人々の大半を殺し、クリスチャンを迫害し、「子羊と戦おうと」するのでしょうか。あるいはまた「そして山と岩塊とにこう言いつづける。わたしたちの上に倒れかかれ。そしてみ座に座っておられる方の顔から、また子羊の憤りからわたしたちを隠してくれ。」この時点でこんなに怯えている人々が、第七番の鉢が注がれた後ですえ「天の神を冒とくし、自分の業を悔い改め」ず、「全能者なる神の大いなる日の戦争」に勇んで参加するのでしょうか。あり得ないでしょう。

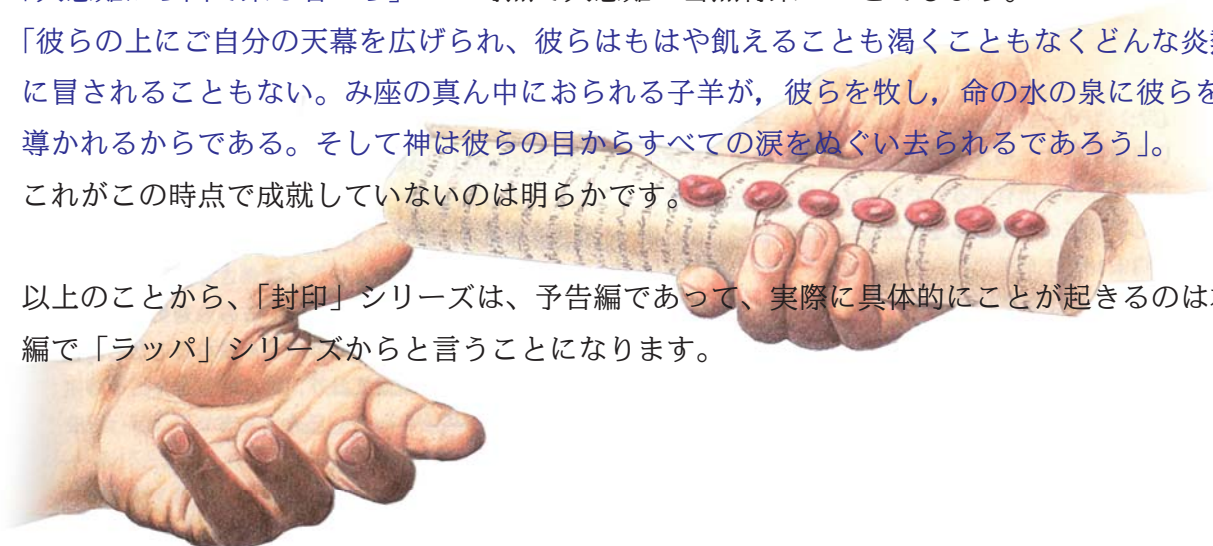
「額に証印を押してしまうまでは、地も海も木も損なってはならない」第六の封印のこの時ですえ、この地球のどれも損なってはならないのに、1から4番目が起きていたら、すでに損なわれているでしょう。

「大患難から出て来る者たち」この時点で大患難は当然将来のことでしょう。

「彼らの上にご自分の天幕を広げられ、彼らはもはや飢えることも渴くこともなくどんな炎熱に冒されることもない。み座の真ん中におられる子羊が、彼らを牧し、命の水の泉に彼らを導かれるからである。そして神は彼らの目からすべての涙をぬぐい去られるであろう」。

これがこの時点で成就していないのは明らかです。

以上のことから、「封印」シリーズは、予告編であって、実際に具体的にことが起きるのは本編で「ラッパ」シリーズからと言うことになります。



「ラッパ」シリーズはサタンが地に落とされた結果の災い

ラッパによって生じる災いは確かに神からの裁きの表明ではありますが、鉢の場合は行使者が明確で、み使いが「神の怒り」を注ぎます。

しかし、ラッパの方は行為者も、対象もはっきりしません。しかし聖書歴史上に見られる多くの場合のように、災いをもたらすもの自体は、サタンの霊に動かされる野獣、あるいは偽預言者による人間的な野望に基づくもので、神はそれらを許されることによって、ご自分の裁きとされる言うことでしょう。

とりわけ第5のラッパの記述から明らかですが、例えば、「額にしるしのある者は損なわないように」言われないと、み使いが、誰彼構わず損なってしまうのでしょうか。言われなくともそうするはずです。従ってそう条件をつけられる必要のある者、つまりサタン側のものに、それは許されないというコントロールでしょう。

これらを考えると、ラッパシリーズの行為者はサタン側と言えます。

「鉢」シリーズは「ラッパ」シリーズを別の観点から記した記述

「ラッパ」と「鉢」の抜粋したキーワード表を比べてみると分かりますが、「ラッパの」災いをもたらす側が「鉢」では災いを受ける側として書かれていますが、基本的にこの二つは同様の事を述べています。

後で詳述しますが、書かれている内容とその期間を考慮すると7つのラッパが終わったら、もう一度同じ道をたどって、地に対する災厄を一つずつ繰り返すというのは、考えにくいことと思えます。

むしろ、同時期の同じ出来事を、改めて神の怒りの表明という観点から描いているのではないかと思います。あるいは一つのラッパによって引き起こされる災いが対応した鉢の報復で終息、次の災いが始まるという流れかもしれません。

そう言える根拠を、ここで一つ挙げるとすれば、三つのシリーズに共通した、それぞれの最後の表現です。

(啓示 8:5 - 6)「雷が生じ、声と稲妻と地震が起こった。」

(啓示 11:19)「稲妻と声と雷と地震と大きな雹が生じた。」

(啓示 16:18 - 21)「稲妻と声と雷が生じ、…大地震が起きた。…重さが一タラントほどもある大きな雹が天から人々の上に降り」

特に16章の詳しい表現からすると、これら三つはどれも同じ出来事、つまり、災厄の最後として行われる「大バビロンの滅び」を表現していると考えられます。

「ラッパ」と「鉢」の出来事は実は全く同じ時点で生じるもので、それをサタンによる攻撃を受ける側からの表現が「災い」であり、神の側からの表現が「怒りの表明」である。

